

〔原著〕 松本歯学 27: 93~103, 2001

key words : 歯周病患者 - 質問表 - 統計

## 歯周病患者の統計的観察

### 第7報 平成2年~4年における初診時質問表について

伊藤茂樹, 佐藤哲夫, 椎名直樹, 日垣孝一, 温 慶雄, 伊豫田比南  
河谷和彦, 坂本 浩, 大野美知昭, 音琴淳一, 太田紀雄

松本歯科大学 歯科保存学第1講座

A Statistical Observation on the Patients with Periodontal Diseases  
Part 7. Observation from questionnaires given patients, in 1990~1992  
during their first visit to the clinic

SHIGEKI ITO, TETSUO SATO, NAOKI SHIINA, KOICHI HIGAKI, CHING-SHIONG WEN,  
HINA IYODA, KAZUHIKO KAWATANI, HIROSHI SAKAMOTO, MICHIAKI OHNO,  
JUN-ICHI OTOGOTO and NORIO OTA

*Department of Periodontology, Matsumoto Dental University School of Dentistry*

#### Summary

The purpose of this study was to evaluate the condition of patients prior to periodontal treatment. The subjects were 285 patients (162 males, 123 females) who visited the periodontic department of Matsumoto Dental University Hospital between 1990 to 1992. Questionnaires completed by patients at their first visit were analyzed. These questionnaires covered topics such as age, gender, chief complaint, oral habits, favorite foods, periodontal treatment experiences and systemic diseases. The results were classified in to groups by age and gender.

The results were as follows :

1. The 40~49 year-old group of male patients was predominant.
2. 38.6% of the patients were in moderate stages of periodontal disease.
3. The chief complaint was food impaction for 85.2% of the patients.
4. Among the male patients regarding favorite foods, the responses included drinking and smoking.
5. 50.2% of the patients had experienced some form of periodontal treatment.
6. Patients who brushed their teeth twice per day were predominant.
7. In regard to oral habits, 46.7% of the patients snored and most of those who snored were male patients.
8. Many of the 50~59 year-old group patients had hypertension and gastric ulcers.

9. Many of the 30~39 and 40~49 year-old groups of female patients had menoxenia and menorrhagia.

### 緒 言

近年、歯周病に対する一般世論の関心は高まり、それを反映して歯周病を主訴とした患者の来院数も増加している。

歯周治療に際し診査を行なうことはきわめて重要であるが、近年の高齢化社会の到来とともに、全身疾患を併せ持つ患者が増加傾向にあるため、問診によって得られる情報は、他の診査では得られない歯周病患者の状態が把握できることから大変有効である。

当教室では、来院する患者に対する初診時の問診の補助として質問表による調査を行っており、昭和53年から平成元年までの調査結果についてはすでに報告した<sup>1)</sup>。その後、さらに多くの情報を得るために平成2年より質問表の内容を更新し、引き続き調査を行なっている。

今回我々は、平成2年から平成4年までの間に初診として来院した患者を対象とし、前回までの調査方法に加え、新たに歯周病の進行度と質問表の回答との関連について、全身疾患の有無や嗜好品の違いがどのように影響しているのかを検討し、各項目を観察したところ、若干の知見を得たので報告する。

### 調査対象および研究方法

#### 1. 調査対象

平成2年より平成4年までの3年間に松本歯科大学病院歯周病科に来院した患者の中で、資料の調っている男性162名、女性123名、計285名を調査対象とした。

#### 2. 研究方法

質問表(表1, 2)には、患者のリクエスト、全身状態、口腔内の状態および口腔衛生に対する意識などを把握するために、全部で64の項目がある。この中から、前回<sup>1)</sup>調査した項目について同様に調査し、性別、年齢別分布を比較検討した。また、新たに各項目と患者の歯周病の進行度との関連性について、軽度、中等度、重度の各段階に分け検討した。診断は、歯周疾患治療指針<sup>2)</sup>および歯周病の診断と治療のガイドライン<sup>3)</sup>に基づ

き、初診医が行なった。

#### 3. 統計学的分析

統計処理には $\chi^2$ 検定を用いた。

### 結 果

#### 1. 患者年齢別分布(図1)

来院患者は40歳代が32.6%と最も多く、次いで50歳代30.9%、30歳代、60歳代がともに15.4%の順であった。

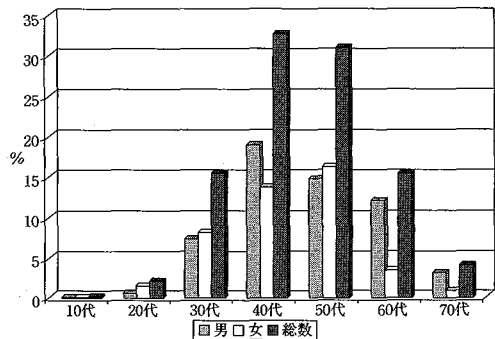


図1：患者年齢別分布

#### 2. 歯周病進行度別分布(図2)

最も多かったのは男性の中等度の患者で23.2%であった。次いで女性の軽度で18.2%、男性の軽度、重度で16.8%であった。

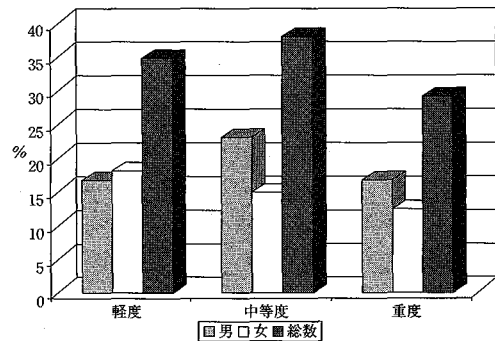


図2：歯周病進行度別分布表

#### 3. 主訴項目別分布(図3)

質問表Bの1~9(表2)が主訴項目に相当し、それぞれ掻痒感(歯ぐきがむずがゆい)、出血(歯を磨くときやリングを食べるときに歯ぐき

表 1

健康調査表 (Health questionnaire)

		Patient's Name _____	Date of birth _____
		Physician's Name _____	Address _____
A 質問をよくよんで答に○印をつけて下さい。			
(はいならばはい, いいえならばいいえ, 全部の質問にお答えください。)			
1. 昨年1年間のうちに, かかりつけの医師の検査を受けたことがありますか?	はい いいえ	14. 何か特定のもの(食物, 猫の毛, 埃など)に対するアレルギーがありますか?	はい いいえ
2. 現在, 医者にかかっていますか?	はい いいえ	15. 蕁麻疹や皮膚疹がでやすいですか?	はい いいえ
3. これまでに何か薬を常用したことがありますか?	はい いいえ	心臓と呼吸器系	
4. これまでに全身的な健康状態で何か変化がありましたか?	はい いいえ	16. 現在, 心臓の調子に異常がありますか, 過去にはありましたか?	はい いいえ
5. この数カ月間で体重の増減がありましたか?	はい いいえ	17. 血圧が高いですか, 低いですか?	はい いいえ
6. 重い病気にかかったことがありますか?	はい いいえ	18. 激しく運動したあと胸が痛くなることがありますか?	はい いいえ
7. 入院したことがありますか?	はい いいえ	19. ちょっと無理をすると息切れがしますか?	はい いいえ
8. 外科的処置(手術)を受けたことがありますか?	はい いいえ	20. 足首がよくはれますか?	はい いいえ
9. 輸血してもらったことがありますか?	はい いいえ	21. 咳が止まりにくいですか?	はい いいえ
10. よく病気をしますか?	はい いいえ	22. 喘息の病歴がありますか?	はい いいえ
11. 今までに次の病気や症状の経験がありますか?	はい いいえ	血液	
A 黄疸(皮膚や眼が黄ばんでくる)	はい いいえ	23. ケガをしたとき血が止まりにくいですか?	はい いいえ
B 肝炎	はい いいえ	24. 打撲のあとがアザになりやすいですか?	はい いいえ
C 心臓病	はい いいえ	25. 貧血(薄い血)のような血液疾患がありますか?	はい いいえ
D 高血圧	はい いいえ	胃腸, 消化器系	
E 胃潰瘍	はい いいえ	26. 最近, 食欲不振ですか?	はい いいえ
F てんかん	はい いいえ	27. 消化不良をよくおこしますか?	はい いいえ
G 糖尿病	はい いいえ	28. 嘔吐がありますか?	はい いいえ
H 麻疹	はい いいえ	29. 嚥下困難がありますか?	はい いいえ
I 腎臓病	はい いいえ	泌尿器系	
J 流行性耳下腺炎	はい いいえ	30. 喉がよく渴きますか?	はい いいえ
K ポリオ	はい いいえ	31. トイレに近い方ですか?	はい いいえ
L リウマチ熱	はい いいえ	32. 腎疾患, 膀胱疾患がありますか?	はい いいえ
M 血液病	はい いいえ	内分泌, 神経	
12. 次の薬物のうちのどれかを服用して異常な反応を示したことがありますか?	はい いいえ	33. 体のどこかがしびれたり, ひりひりした感じになることがありますか?	はい いいえ
A ペニシリン	はい いいえ	34. 体のどこかが完全に麻痺したことがありますか?	はい いいえ
B バルビツール酸塩(睡眠薬)	はい いいえ	35. よく発作や痙攣を起こしますか?	はい いいえ
C アスピリン	はい いいえ	36. 気を失ったりすることがよくありますか?	はい いいえ
D ヨウ素製剤	はい いいえ	37. ひどい頭痛に襲われることがありますか?	はい いいえ
E サルファ剤	はい いいえ	38. 自分のことを神経質な人間と思いませんか?	はい いいえ
F その他の薬物	はい いいえ		
13. 歯科の麻酔(キシロカイン注射)をして異常な反応が起きたことがありますか?	はい いいえ		

患者の署名  
Signature of patient

表 2

## B 特に歯周（病）に関する質問です。

- |   |        |   |                |
|---|--------|---|----------------|
| 1. 歯ぐきがむずかゆいですか。  | はい いいえ | 17. 爪、パイプなどをかんだりくわえたりする癖がありますか。   | はい いいえ         |
| 2. 歯を磨くときやリングを食べる時に歯ぐきから血が出ますか。   | はい いいえ | 18. あなたの家族で歯槽膿漏症にかかった方がありますか？   | はい いいえ         |
| 3. 血朝起きた時に口が粘ばねばするような不快感はありますか。   | はい いいえ | (祖父母、父母、兄、弟、姉、妹、その他)  |                |
| 4. 歯ぐきから膿が出ることがありますか。   | はい いいえ | 19. 食物については蛋白質（肉、魚、貝など）、脂肪（バター、天ぷら、フライなど）、炭水化物（米、パン、うどんなど）、果物、野菜、どんなものが好きですか。 |                |
| 5. 時々歯ぐきをはれることがありますか。   | はい いいえ | 20. 固い食物（落花生、塩豆、カタ焼センペイ、するめなど）が好きですか。   | 好む 普通 好まない     |
| 6. 人から口が臭いといわれますか。  | はい いいえ | 21. 酒のみめますか。  | のむ（1日 ml） のまない |
| 7. 固いものがかみにくくなったと思いますか。   | はい いいえ | 22. タバコを吸いますか。  | すう（1日 本位） すわない |
| 8. 歯の間に食物がはさまりますか。  | はい いいえ | 23. 月経は何歳の時に始まりましたか、なくなったのはいつからですか。   | 満 歳 満 歳        |
| 9. 歯が動いたり歯並びが悪くなって来たと思えますか。   | はい いいえ | 24. 月経は規則正しくありますか。  | 正しい 時々乱れる 不順   |
| 10. 今までにタバコのやにや歯石をとってもらったことがありますか。  | はい いいえ | 25. 月経の時に頭痛、腹痛などがありますか。   | 強い 時々ある ない     |
| 11. 歯肉炎や歯槽膿漏症の治療をうけたことがありますか。   | はい いいえ | 26. 現在妊娠していますか、又妊娠は何回しましたか。   | 回              |
| 12. それはどういう治療でしたか。<br>歯石をとる 歯ぐきの手術<br>歯の固定 歯をぬく その他                         |        |   |                |
| 13. 現在自宅での手当は、<br>歯ブラシ（1日 回） 歯ブラシ名 _____<br>歯ぐきのマッサージをする<br>歯ブラシの交換時期（ ヶ月毎） |        |   |                |
| 14. 歯ざしりの癖がありますか。   | はい いいえ |   |                |
| 15. 鼻がつまって口で呼吸することがありますか。   | はい いいえ |   |                |
| 16. いびきをかきますか。  | はい いいえ |   |                |

患者の署名

Signature of patient

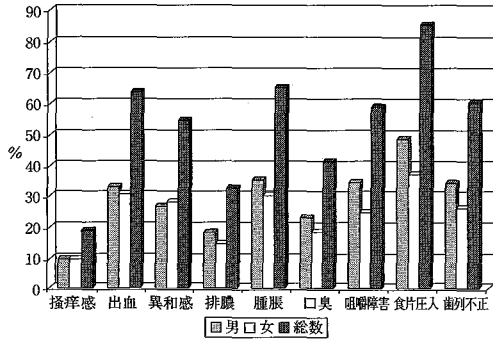


図3：主訴別分布

から血が出る), 違和感 (朝起きたときに口がネバネバするような不快感), 排膿 (歯ぐきから膿が出る), 腫脹 (時々歯ぐきが腫れる), 口臭 (人から口が臭いといわれる), 咀嚼障害 (固いものが噛みにくくなった), 食片圧入 (歯の間に食物がはさまる), 歯列不正 (歯が動いたり歯並びが悪くなってきた) の各項目に分類し調査したところ, 食片圧入が85.2%と最も多く, 次いで腫脹が64.9%, 以下出血63.3%, 歯列不正60.0%, 咀嚼

障害58.6%であった。

次に, 各項目と歯周病進行度との関係を見ると (図4~12), 軽度, 中等度, 重度のいずれにおいても食片圧入が軽度80.0%, 中等度86.4%, 重度90.7%と高い値を示した。各項目別にみると搔痒感と異和感については性差は認められず, 他の7項目についてはいずれも男性の方がやや上回った。

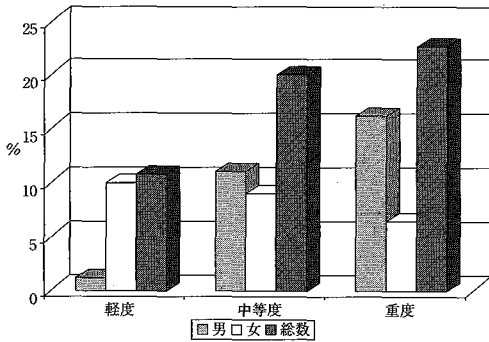


図4：搔痒感

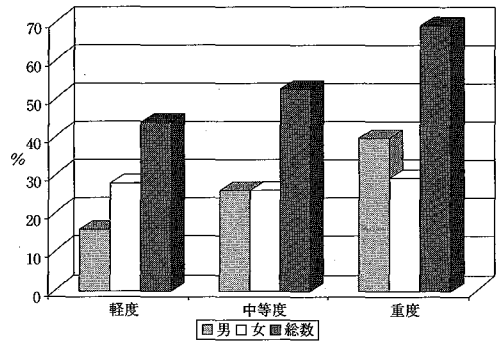


図6：違和感

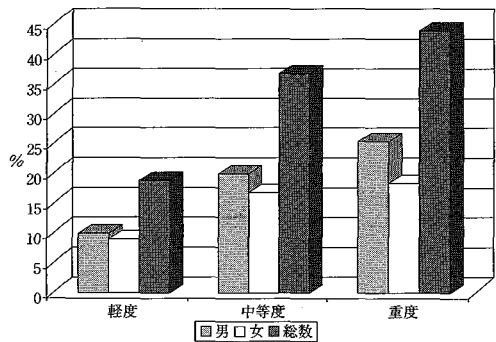


図7：排膿

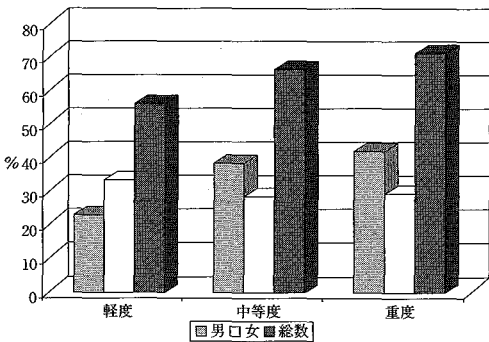


図5：出血

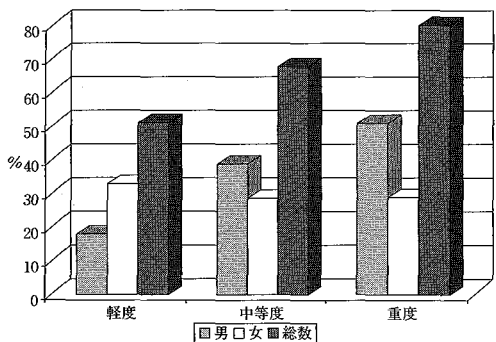


図8：腫脹

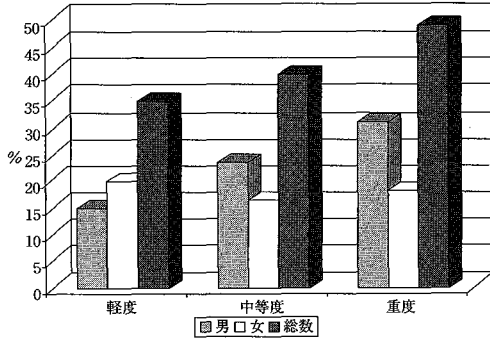


図9：口臭

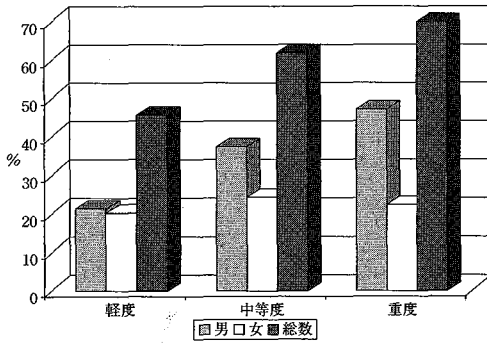


図10：咀嚼障害

4. 嗜好品別分布

喫煙をする人は30.2%で、そのうち男性が26.0%と高い値を示した。飲酒をする人は46.0%であり、やはり男性が多く38.6%であった(図13)。

食品の好みでは、蛋白質が最も多く67.7%で、以下炭水化物、脂肪、野菜の順で、果実は最も少なく43.2%であった(図14)。

食品の固さの好みでは、全体の33.3%の人が好むと答えており、好まないとする人の4.5倍という結果であった(図15)。

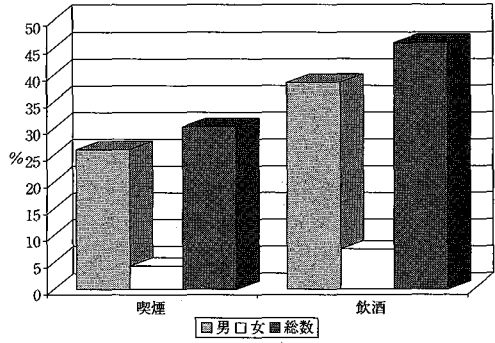


図13：嗜好品

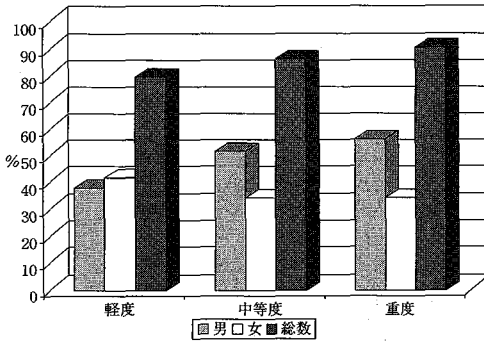


図11：食片圧入

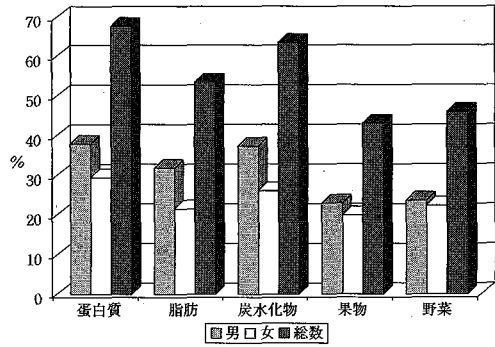


図14：嗜好品 (食品)

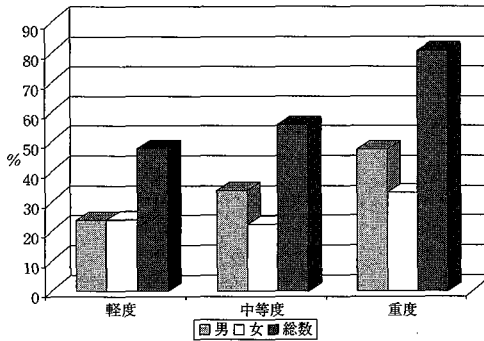


図12：歯列不正

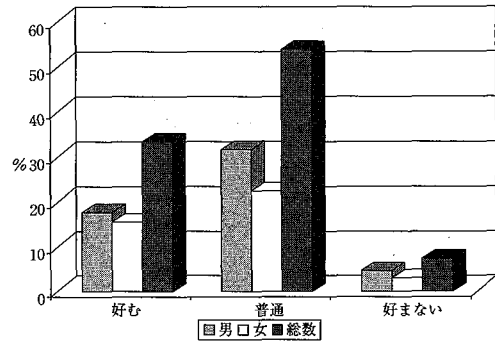


図15：食品の固さ

5. 過去における歯周治療経験の有無 (図16)

歯石除去の経験者は50.2%, 何らかの歯周治療経験者は24.9%であり, 前回をやや下回った。

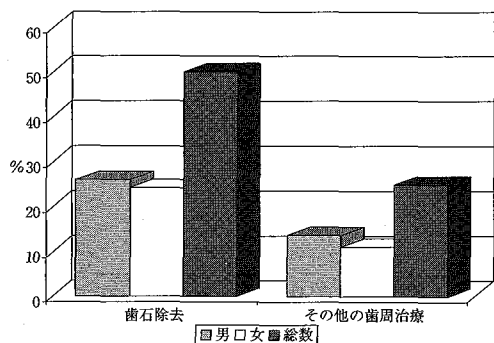


図16: 歯周治療経験者

6. ブラッシングの回数 (図17)

1日2回行なっていると答えた人が最も多く43.2%であった。次いで, 1日3回と答えた23.5%の中で, 16.1%は女性であった。逆に1日1回と答えた21.1%中, 男性は17.2%, 1日0回と答えた1.1%中, 男性は0.7%と, 回数が少なくなるほど男性が高い値を示した。

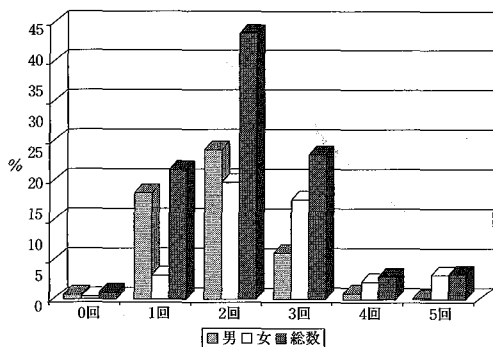


図17: ブラッシング

7. 悪習癖の分布 (図18)

いびきが46.7%と高い値を示し, 中でも男性が31.6%と前回よりわずかであるが増加した。次いで, 口呼吸が23.5%, 歯ぎしりが12.3%, 咬爪, パイプは2.1%であった。いずれも男性に多い傾向がみられた。

8. 全身疾患の既往歴分布 (図19)

過去から現在における全身疾患の既往歴については, 高血圧, 胃潰瘍がともに14.7%で最も多かった。次に多かったのは麻疹の12.5%であっ

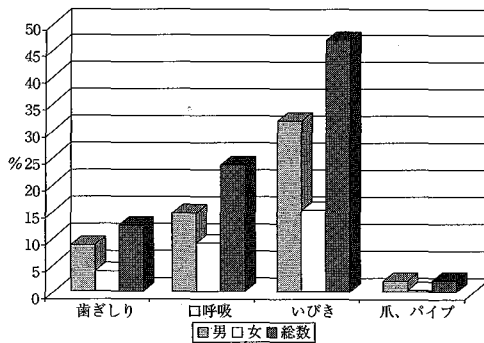


図18: 悪習癖

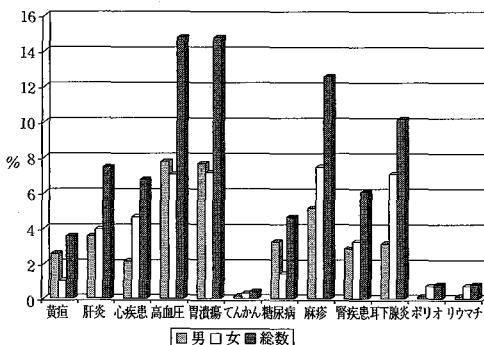


図19: 全身疾患の既往歴

た。以下, 流行性耳下腺炎の10.1%, 肝炎7.4%, 心疾患6.7%, 腎疾患6.0%, 糖尿病4.6%, 黄疸3.5%であった。その他の3項目はごくわずかであった。

9. 全身の状態の分布 (図20)

この項目は前回報告分より追加されたものである。今現在の全身状態を, 大きく心・呼吸器系, 血液, 胃腸・消化器系, 泌尿器系, 内分泌・神経系の5項目に分けて調査した結果, 内分泌・神

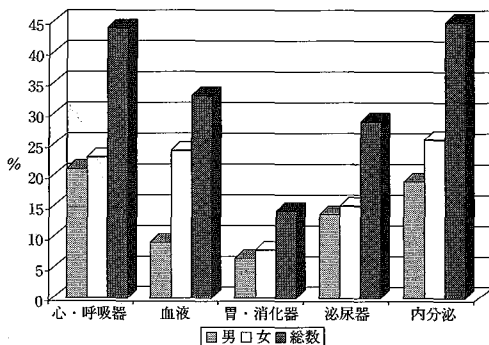


図20: 全身の状態

経系が最も多く44.9%，次いで心・呼吸器系が43.9%，血液33.0%，泌尿器系28.8%の順であり，血液と内分泌は女性に多くみられた。

#### 10. アレルギーの分布 (図21)

食品などによるアレルギーが男女とも最も多く，13.7%であった。以下，歯科麻酔に対するアレルギーが8.8%，薬物によるものが7.7%であった。薬物については男性2.5%，女性5.3%であり，女性が約2倍の値を示した。

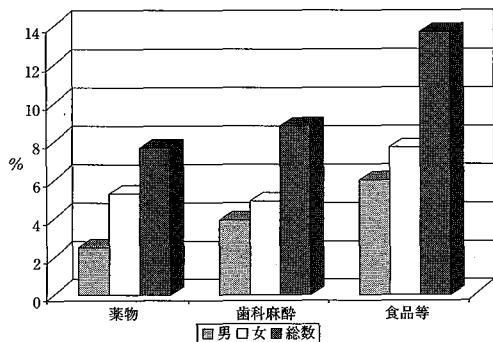


図21：アレルギー

#### 11. 家族歴 (図22)

家族に歯周病の既往のある人は35.4%であった。

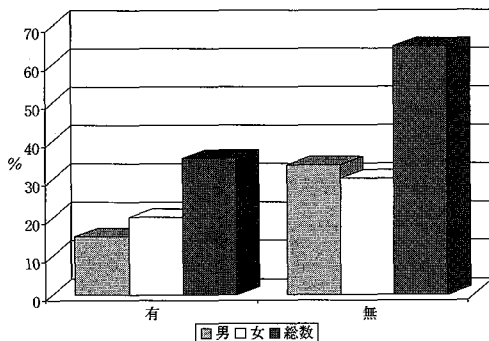


図22：家族歴

#### 12. 女性に関する調査結果

初潮年齢は14歳が22.1%で最も多かった。閉経年齢は50歳代に多く18.8%であった。また，生理不順のある人は11.0%であった。妊娠回数では2回が42.2%で最も多く，以下1回27.4%，3回20.5%の順であった。

#### 13. 統計学的分析

各項目別に男女間の $\chi^2$ 検定を行なった結果，

有意差は認められなかった。

#### 考 察

来院患者の年代別分布では男女とも40歳代が最も多かったが，これは我々の行った第5報<sup>4)</sup>の調査結果と同様である。40～50歳代が全体の63.1%と高い値を示し，性別では男性の方が女性をやや上回ったが，これは佐々木ら<sup>5)</sup>，新谷ら<sup>6)</sup>の，30～40歳代に多いという報告とは異なっていた。また，30歳代と60歳代は15.4%で同値であり，我々の前回の報告<sup>1)</sup>における30歳代25.9%，60歳代15.1%という結果と比較して，男女とも初診時の高齢化の傾向が示された。

歯周病進行度における分布については，中等度が最も多く，性別では女性よりも男性の方がやや歯周病が進行してから来院する傾向が示された。

主訴項目については，食片圧入が85.2%で最も多く，前回<sup>1)</sup>と順位は同様であり，上野ら<sup>7)</sup>，浦ら<sup>8)</sup>の報告と一致したが，次に多かったのは腫脹で64.9%，出血63.9%であった。前回2番目に多かった歯列不正は4番目であった。

我々はこれまでに，初診時には軽度の歯周炎患者が多いことを報告してきた<sup>1,4)</sup>。しかし今回の調査では，来院患者の年齢が高まるとともに，ある程度歯周病が進行してから出現したと思われる自覚症状を主訴として来院する傾向が示された。これは，マスコミなどを通じて広く歯周病への関心が高まる一方で，仕事などに忙殺され，口臭を指摘されたり自覚症状が出現しなければ気がつきにくいこと，来院につながらないことが考えられる。従って，中等度の患者の増加と主訴の順位の変化は好ましいことではなく，軽度のうちに来院できるよう何らかの対策を講じなければならない。

次に嗜好品であるが，喫煙する人は30.2%で，前回<sup>1)</sup>の29.7%よりもやや増加していた。飲酒については男女とも10.8%の増加がみられた。喫煙，飲酒と歯周病の程度に関してはいくつかの報告があるが，新谷ら<sup>6)</sup>は，喫煙および飲酒をする人に歯周病の進行した例が多くみられ，特に喫煙に関しては統計学的に有意差が認められたと述べている。以前より，喫煙は歯周病の増悪因子であるといわれており，また喫煙者と非喫煙者に対する歯周病のオッズ比は2～9倍であることも報告



されている<sup>9)</sup>。全身的にも、喫煙習慣と癌や呼吸器系、循環器系および消化器系疾患との関連や、骨密度減少ならびに骨粗鬆症の危険増との関連が指摘されており<sup>10)</sup>、また受動喫煙により非喫煙者が被る健康への影響も明らかになっている<sup>11)</sup>。さらに、喫煙者の死亡率は非喫煙者の1.44~1.83倍であることも報告されている<sup>10)</sup>。その一方で、禁煙により肺癌、虚血性心疾患および胃潰瘍などのリスクが低下したことを示す報告も多数みられる<sup>12)</sup>。このように、喫煙による人体への悪影響は広く一般に浸透しつつあるにもかかわらず、今回の調査結果からは、喫煙者が前回<sup>1)</sup>よりも増加している。これは、喫煙がニコチンの作用を介して中枢神経の興奮を引き起こすことと、そこから精神神経機能の改善をもたらすという報告<sup>10)</sup>や、精神的緊張からの軽減を図るために喫煙行動が促進されるという報告<sup>13)</sup>があることから、現代人のストレスの増加に伴って、その解消法の一助としての喫煙が増えているものと推察される。

次に、食品の好みでは蛋白質が大幅に減少し、逆に前回<sup>1)</sup>最も少なかった野菜が増加した。これは、患者の高齢化により食品の好みが変化したと考えられる。ビタミンCの不足による歯肉出血や、ビタミンDの不足によるカルシウムの吸収不全によって歯周病が増悪することはよく知られており<sup>14)</sup>、野菜を多くした栄養バランスの良い食事をとることは全身的な健康のためにも必要である。従って、野菜を好む人が増加したことは好ましい結果である。

食品の固さの好みについては、固いものを好む人と好まない人との差は前回<sup>1)</sup>の約3倍よりも増加し、約4.5倍という結果であった。これは、新谷ら<sup>9)</sup>の歯周疾患が進行するほど固いものを好む人の割合は減少し、好みの変化があるという報告と異なっている。前回より咀嚼障害が増加していることと併せて、歯周疾患への悪影響という点で問題であり、今後も考えていかなければならない。

過去における歯周疾患治療経験では、約半数が歯石除去、約3分の1が何らかの歯周治療を受けたことがあると答えており、これは前回<sup>1)</sup>と同様の結果であった。上野ら<sup>7)</sup>は、歯石除去は女性に多く、歯肉の処置は男性に多くみられると報告しているが、今回の調査ではほぼ同数であった。

ブラッシングの回数については、1日2回の人

が約半数であり、次いで1日3回、1日1回の順であり、1日1回は男性に多かった。これは上野ら<sup>7)</sup>の報告と一致した。森田ら<sup>15)</sup>は、1日2回以上ブラッシングをする人には歯周病の治療経験のない場合が多いと述べている。新谷ら<sup>9)</sup>、浦ら<sup>8)</sup>は、歯周病が進行するとともにブラッシングの回数が多くなり、しかも女性に多いと述べている。従って、歯周治療経験者および男性のブラッシングの回数に対する意識を向上させるよう努めなければならない。また、今回は1日0回という人が、1.1%と少ない値ではあるが前回<sup>1)</sup>の2倍以上になっており、動機づけの必要性を強く感じた。

次に、悪習癖ではいびきが46.7%で約半数であった。以下口呼吸、歯ぎしり、咬爪癖、パイプの順であり、前回<sup>1)</sup>と順位は同様であった。いずれも男性に多くみられた。いびきと口呼吸は関連している場合が多く、また口呼吸と歯周病とは密接な関係があることが報告されている<sup>14)</sup>ため、耳鼻科との並行治療を必要とする患者が相当数いるものと思われる。さらに、歯ぎしりをする人が依然として10%以上みられ、岸本<sup>16)</sup>、石川ら<sup>17)</sup>の、歯周病患者の約15%にみられるという報告と類似していた。歯ぎしりは、歯周組織に対する外傷性因子として特に問題視されている<sup>14)</sup>。

家族に歯周病の既往のある人は35.4%で前回<sup>1)</sup>の32.3%と比較してやや増加しており、引き続き高い割合を示していた。

全身疾患の既往歴では、高血圧と胃潰瘍がともに14.7%で最も多く、次いで麻疹の12.6%であった。前回<sup>1)</sup>と比較して、全体的にはほとんど同じかやや減少しているものが多かったが、その中で肝炎7.4%、腎6.0%は前回の2倍から3倍の値を示した。

全身疾患は、内分泌が44.9%で最も多く、心・呼吸器43.9%、血液33.0%、泌尿器28.8%であった。胃・消化器については14.4%と、前回<sup>1)</sup>の3.8%よりも大幅に増加した。特に内分泌系の増加は著しく、5.5倍を示した。胃・消化器系については嗜好品、特に喫煙との重複が多く認められた。

アレルギーに関しては、食品などによるものが13.7%で最も多く、次いで歯科麻酔の8.8%であった。近年、杉花粉や食品添加物などによるア

アレルギーが増加しつつあり、当科においても成人性のアトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎などを併発する歯周病患者が診られるようになった。

以上のことから、何らかの全身疾患を併せ持つ患者が増え続けており、引き続き歯周病患者の全身の因子への配慮や、投薬、麻酔などに対する注意が必要であることが示唆された。また、肝炎が増加していることから、十分な感染防止対策の必要性を認めた。

次に、女性に関しては生理や初潮年齢、閉経年齢は前回<sup>1)</sup>とほぼ同様の結果であったが、妊娠回数にやや減少が認められた。女性の場合、生理や妊娠回数は歯周病の二次的因子になるといわれており<sup>14)</sup>、新谷ら<sup>6)</sup>は、子供のある人に歯周病の進行した例が多いと報告している。また、近年では閉経と歯周病との関連を示唆する報告<sup>18,19)</sup>もみられる。

今回の我々の調査結果からは、患者の高齢化や全身疾患の増加傾向が示された。従って、質問表の重要性を再認識するとともに、今後も内容に関してなお十分な検討を行なう必要があると思われる。

## 結 論

平成2年より平成4年までの間の3年間に松本歯科大学病院歯周病科に来院した患者のうち、男性162名、女性123名、計285名を調査対象とし、初診時の質問表について検討し、次の結果を得た。

1. 来院患者は40歳代が多く、次いで50歳代、30歳代の順で男性が多かった。
2. 歯周疾患の進行度は中等度が38.6%で最も多く、次いで軽度が35.1%、重度26.3%の順であった。
3. 主訴については食片圧入の85.2%が最も多く、腫脹、出血、歯列不正、咀嚼障害、違和感の順で、それぞれ50%以上であった。また、各主訴においては40歳代が最も多く、男女間の差は他の年齢層に比べて大きい傾向を示した。
4. 嗜好品では飲酒、喫煙ともに男性が多かった。食品に関しては蛋白質、炭水化物、脂肪、野菜を好む人が多く、固いものを好む人は33.3%で、好まない人の4.5倍であった。
5. 過去における治療経験では歯石除去を受けた

のは50.2%であった。また、何らかの歯周治療経験ありと答えた人は24.9%であった。

6. ブラッシングの回数は1日2回が最も多く、次いで1日3回、1日1回の順であった。
7. 悪習癖についてはいびきが多く46.7%であり、男性に多かった。
8. 全身疾患では高血圧および胃潰瘍が最も多く、以下麻疹、流行性耳下腺炎の順であり、50歳代が多かった。男女の差はほとんどみられなかった。
9. 女性に関しては来院数の多い30歳代、40歳代に生理不順、生理痛が多かった。また、閉経年齢は50歳代が最も多かった。

## 文 献

- 1) 野村 寿, 上條博之, 山崎誠司, 大野美知昭, 溝口貴志, 小野 睦, 戒能 正, 嶋田求治, 上田剛弘, 植木健雄, 太田紀雄 (1995) 歯周病患者の統計的観察 第6報 昭和61年~平成元年における初診時質問表について. 松本歯学 21: 280-90.
- 2) 日本歯周病学会編 (1989) 改訂歯周疾患治療指針, 日本歯周病学会.
- 3) 歯周病の診断と治療のガイドライン作成検討会 (1996) 歯周病の診断と治療のガイドライン. 歯科点数表の解釈, 877-928. 社会保険研究所, 東京.
- 4) 金山奎二, 伊藤茂樹, 呉 中興, 北原郷子, 小沢嘉彦, 中山雅弘, 坂本 浩, 河谷和彦, 太田紀雄 (1987) 歯周病患者の統計的観察 第5報 初診時における質問表について. 日歯周誌 29: 1170-80.
- 5) 佐々木隆博, 鈴木英夫, 松丸健三郎 (1972) 歯周疾患の統計的観察 第1報 主訴から診た患者の実態について. 日歯周誌 14: 26-32.
- 6) 新谷史子, 中嶋美紀子, 塩野宗則, 大場浩二, 新井 高, 中村治郎 (1982) 歯周疾患患者の問診表の統計的観察. 日歯周誌 24: 165-75.
- 7) 上野益卓, 岡部秋彦, 玉井憲二, 佐藤昌司, 三上 格, 河野昭彦, 深井浩一, 高橋克弥, 大滝晃一, 長谷川 明 (1985) 歯周疾患 (慢性辺縁性歯周炎) 患者の初診時項目に関する検討. 日歯周誌 27: 618-34.
- 8) 浦 浩二郎, 永松 敬, 國松和司, 岡本行人, 清水満廣, 小鷲悠典, 加藤伊八 (1984) 長崎小離島の口腔内疾患に関する疫学的研究. 日歯周誌 26: 757-66.
- 9) 青山 旬 (1994) 美しい歯とたばこ. からだの科学 184: 43-5.

- 10) 和田 直 (1970) 喫煙と大気汚染の医学, 金原出版, 東京.
- 11) 平山 雄 (1981) 直接禁煙タバコ病と間接禁煙タバコ病. 診断と治療 **69**: 881-908.
- 12) 小川 浩 (1992) 喫煙の健康リスク. からだの科学 **162**: 39-43.
- 13) Schachter, S., Silverstein, B., Kozlowski, L. T. (1977) Effects of stress on cigarette smoking and urinary PH. J Exp Psychol [Gen] **106**: 13.
- 14) 栢 豪洋, 太田紀雄, 小鷲悠典 (1998) 新歯周病学, クインテッセンス, 東京.
- 15) 森田 学, 平岩 弘, 鶴見真由美, 坂田真理子, 岸本悦央, 渡邊達夫 (1984) 職場における歯周疾患に関する健診及びアンケート調査. 口腔衛會誌 **34**: 200-1.
- 16) 岸本 正 (1957) 歯軋りに関する研究. 日矯誌 **16**: 26-33.
- 17) 石川 純, 徳永憲一, 鈴木文雄, 鈴木康司 (1967) 歯周疾患々者の舌や頬にみられる歯の圧痕と歯ぎしりなど, 筋緊張癖との関係について. 口病誌 **34**: 493.
- 18) 藤代治義, 大島康成, 浅井勇吾, 川瀬仁史, 柳楽たまき, Marie Grace S Poblete, 吉成伸夫, 稲垣幸司, 野口俊英 (1997) 歯周病を主訴とした閉経後成人女性の骨粗鬆症所見と歯周病態との関係. 日歯周誌 **39**: 226-33.
- 19) 音琴淳一, 渡邊英俊, 溝口貴志, 大野美知昭, 野村 寿, 山崎誠司, 上條博之, 伊藤茂樹, 太田紀雄 (1998) 女性歯周疾患罹患者における閉経前後の歯槽骨吸収量および臨床所見の差異. 日歯周誌 **40**: 96-102.